

新聞が、学校生活に・学習に位置づくための取り組み

指定校1年次 大鹿村立大鹿小学校 橋本 雅裕

(1) 本年度のNIE活動の概要

NIE研究指定校1年目に当たり、NIEについての職員研修、新聞の有効的な活用方法の検討、新聞の閲覧コーナーの設置などを行ってきた。NIEについての職員研修では、新聞社の方から新聞の有効的な活用方法を学んだり、NIEそのものの活動について研修したりしてきた。新聞の有効的な活用方法の検討では、1年生から6年生まで全学年で新聞と関わる学習に取り組み、研修し合った。新聞の閲覧コーナーを設置することで、児童が新聞に触れる機会を設けることができ、日常生活の中に新聞が位置付いてきた。

(2) 本年度のNIE活動をはじめる前の状況

本校は、下伊那の山間にある小規模な学校で、全校児童数48名、7学級（全学年単級6＋特別支援学級1）である。職員用に新聞購読をしているが、児童が直接新聞を購読できるような場はなかった。新聞を購読していない家庭もあり、児童が新聞に触れる機会が多いとは言えない状況にあった。学習において新聞を利用する必要がある場合は、職員が家庭で購読している新聞を持ち寄ったり、購入したりしていた。

(3) NIE活動の狙い（育てたい力）

本校の学校教育目標「やさしさと思いやりのある子（徳）、汗して働くたくましい子（体）、自ら考えつくりだす子（知）」を受け、本年度本校では、全校研究テーマを【「できた！ わかった！ 楽しい！」が感じられる授業作り～情報活用能力・読解力・表現力を高める中で～】とし、研究を深めてきた。中でも重点目標を「子どもが学ぶことの楽しさやよさを感じる学習に」とし、「授業がもっとよくなる3観点」（ねらい・めりはり・見とどけ）を踏まえた授業を実践してきた。NIE研究指定校1年目に当たり、先に述べた研究テーマ達成のために、必要な情報を探し、複数の記事を読み比べてみる、新聞づくりのための手本とするなどの活動を取り入れ、新聞の良さや楽しさを感じ取れるようにしてきた。



(4) 公開授業以外を含めたNIEの取り組みの状況

① NIE職員研修

NIEとは何か、新聞の有効的な利用方法など、校内研究を始めるに当たり、関係者を招いて職員研修を行った。その結果、職員が共通認識をもち研究を出発することができた。

② 新聞コーナーの設置

児童や教職員が自由に新聞に触れられるように、『新聞となかよしNIEコーナー』を設

置した。その結果、学習時間はもちろん、休み時間にも新聞を手に取り、読み進める児童の姿が見られるようになった。



③ 学年での実践

各担任がどのような場面で新聞活用を入れることができるか検討し、実践を行った。

学年	活動実践（教科等）
1	「しらせたいな見せたいな（国語）」 ・新聞の写真から、見つけたことを短い言葉で書き、教科書をモデルにしてどのように文章を作ればよいか考え、主語を明確にして1項目ごとに一文ずつ書く。
2	「かたかなで書くことば（国語）」 ・子どもたちが自分で選んだ新聞記事から、かたかなの言葉を探し、仲間分けをする。 「主語と述語に気をつけよう」（国語） ・子どもたちが選んだ新聞記事から、簡単な文を選び、学習の最後に主語と述語を探す問題を出し合う。
3	「新聞作り（総合）」 ・地域の情報を新聞で集め、南信州のできごとや文化を調べ、切りぬいた新聞から南信州の特徴をまとめる。
4	「気になった記事を紹介し合おう（国語）」 ・新聞の1面を読み比べ記事を紹介し合う。 「新聞を作ろう（国語）」 ・新聞の書き方の基礎を学習する。 「新聞を作ろう（総合）」 ・松本諏訪見学で学んだことを新聞にまとめる。（総合）
5	「災害についての新聞記事のスクラップ、発表（理科）」 「毎日当番がニュースをピックアップし共有（朝の会）」
6	「修学旅行の学習として」 ・事前学習として、国の政治に関する記事を選び要約し、自分の感想を書く。要約と感想を朝の会で発表する。（週に2つの記事） ・事後学習として、自分が興味を持った記事を選び要約し、自分の感想を書く。要約と感想を朝の会で発表する。 (週に1つの記事)

(5) 公開授業などの活動内容

1 第1学年 国語「しらせたいな、見せたいな」

2 単元目標

- (1) 新聞の記事から書きたいことを見つけることができる。
- (2) 語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表すことができる。
- (3) 文章を読み返し、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。
- (4) 助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞の記事から書きたいことを見つけている。 語と語や文と文との続き方に注意しながら書き表している。 文章を読み返し、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 知らせたいものを丁寧に観察し、見つけたことを文章にして伝えようとしている。

4 単元展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ①単元名とリード文を読み、学習目標を確認する。 ②新聞記事の写真から家の人に知らせたいものを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に興味がわきそうな動物・植物・食べ物・乗り物が載っている写真を集めておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞の写真から、知らせたいことを見つけている。[態度]
2 3	<ul style="list-style-type: none"> ①知らせたいものをよく観察して、写真から線を引いて見つけたことを短い言葉で書く。 ②P18とP19の作例を比べ、対応する言葉に○をする。 	<ul style="list-style-type: none"> P18の作例を参考に観察した絵から短い言葉で書く内容とその観点を確かめる。 選んだ写真について「色・形・様子・大きさ・聞こえそうな音・しそうなにおい・さわった感じ」などについて書けるようにワークシートを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知らせたいものをよく見て、色・形・様子などの特徴を短い言葉で書いている。[思・判・表]
4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ①P18とP19の作例を比べ、短い言葉をどのように文にするかを考える。 ②短い言葉で様子を書いたことを文にして、短冊カードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの事柄を1文にしていることに気付かせ、P19の作例から、句読点の打ち方、助詞「は」の使い方を確かめる。 短冊カードを用意して、一つの事柄に対して1枚の短冊カードに書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主語を明確にして1項目ごとに文を作ることができている。[思・判・表] 助詞の「は」の使い方や句読点の打ち方を正しく理解して書いている。[知・技]
5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ①短冊を並び替えて、書く順序を考える。 ②書き出しを考え、決めた順序に沿って文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> どのような順序で知らせたら分かりやすいかを作例を元に指導する。 家の人に知らせたい順番に書くように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 語と語や文と文との続き方に注意しながら、短い言葉で書いたことを一文にまとめている。[思・判・表]

	③P20を参考にして文章を読み返し、必要に応じて直す。	・声に出して読んで、間違いがないかを確認させる。	・書いた文章を読み返し、間違いを正している。 [思・判・表]
8 9	①書いた文章を友達と読み合い、よいところを伝え合う。 ②家の人に読んでもらい、感想をもらう。 ③学習を振り返って感想を書く。	・電子黒板に大きく写真を載せ、見ながら説明できるようにする。 ・互いの文章を声に出して読ませ、よいところを伝え合うように指導する。 ・事前に家の人に趣旨を説明し、依頼しておく。	・自分の伝えたいことを言葉で伝えることができたことに達成感をもち、前向きな感想を書こうとしている。 [態度]

5 本時案

(1) 主眼：新聞の写真から、見つけたことを短い言葉で書いた児童が、教科書をモデルにしてどのように文章を作ればよいか考えることを通して、助詞の「は」、句読点のつけ方に注意しながら、主語を明確にして1項目ごとに一文ずつ書くことができる。

(2) 本時の位置（全9時間中4時）

前時：知らせたいものをよく観察して、見つけたことを短い言葉で書いた。

次時：書いた文を並べ替えて、つながりのある文章を書き、句読点や助詞が正しく書けているかを読み返して直す。

(3) 指導上の留意点

①主語を明確にして、一つの項目に対して一つの文が作れるように例を見せながら説明する。

②句読点のつけ方を確認し、どこに句読点をつけるか考えさせる。

③1つの項目について短冊に書く時に、段落を意識して1マス空けて書くように伝える。

(4) 評価規準：○助詞の「は」の使い方や、句読点の打ち方を正しく理解して書いている

[記述]【知識・技能】

○主語を明確にして1項目ごとに文を作ることができる。

[記述]【思考・判断・表現】

6 展開

時	児童の活動	予想される児童の反応	指導 ●評価
導入	1 新聞の写真と前時に書いた短い言葉を確認し、どのように文にしたらいいか考える。	・ぼくはカエルの絵を選んだ。 ・色は緑色だった。 ・「つつつつ」って書いたよ。 ・どうやって文にしたらいいかよく分からないな。	・新聞の写真を貼ったカードをくばり、前時にメモしたことを確認させる。
めあて：メモしたことを文にしよう。			

	2 教科書の P18 と P19 の作例を比べて、絵と短い言葉をどのようにして文章にするのか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「しろ」は「もこのけは～」に書かれていたよ。 ・「くろ」は「めは、まっくろです。」になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・P18 の短い言葉が P19 のどこに書かれているのか確認し、どのように文章ができているか確かめるようにする。 ・新聞の写真と担任が作成した文章を見せ、見通しが持てるようにする。
学習課題： 「 <input type="text"/> は <input type="text"/> です。」を使って、短冊を作ろう。			
展開	3 新聞記事の写真と言葉を書いたカードから文を作り短冊に書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「色は緑です。」って書こうかな。 ・「大きさは、手のひらくらいの大きさです。」にしよう。 ・「いいにおい」はどうやって文にしようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短冊を配り、一つの短冊に一つの文を書くようにする。 ・「○○は○○です。」という文を作ればよいことを確認する。 ・使った言葉は、○印をして2回書かないように伝える。 ・迷っている子には、先生や友達の書き方を参考にしてもよいことを伝える。 ・短冊の1マス目は、段落を意識して空けるように伝える。 ・句読点を忘れずにつけることを確認する。 ・句点は文の最後に、読点は「～は」の後のように文の切れ目につけることを確かめる。 ●助詞の「は」の使い方や、句読点の打ち方を正しく書いているか。[記述]【知識・技能】 ●主語を明確にして1項目ごとに文を作ることができるか。[記述]【思考・判断・表現】
終末	4 文章を作った感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・文を作るのが楽しかったからまたやりたい。 ・文を作るのが難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「文を作るのが楽しかった。」など、文を作ることに関する感想を言うように伝える。

7 児童の反応

- ・お家の人に知らせたい新聞記事を選ぶ時には、写真に注目し、興味を持ったものやお家の人の好きなものを意欲的に選んでいた。
- ・新聞の写真を取り扱ったことで、児童はじっくりと観察することができ、何度も見返して「色」「形」「大きさ」「さわった感じ」などの記述をしていた。



- ・「はなのいろわ きいろです」と誤ったお手本を示したことで「『わ』じゃなくて『は』」「マルがない。」などと指摘し、気を付けて書くことができていた。
- ・ワークシートで「色」「あじ」「形」「大きさ」「音」「におい」「さわった感じ」と項目をしぼったことで、それぞれの項目について詳しく観察をして記述することができていた。
- ・全体で書き方を共有したあとでも、文を作ることに苦戦している児童もいた。個別に声をかけ、まずは、口に出して文を作るようにアドバイスをした。口に出して文章を作ることができたため、そのまま書くことができた。

(6) 1年間取り組んだ成果と課題

① 児童の立場から

- ・新聞コーナーを設置したことで、常に新聞に触れられる環境ができ、新聞に関心をもつことができた。また、活字に触れる機会が増えた。
- ・数社の新聞記事を読み比べることで、必要な情報を比較検討する力がついてきた。
- ・社会見学や修学旅行後に学習のまとめとして新聞を作成する際、実際の新聞を参考にすることで、より読みやすい新聞を書くために、絵図の構成や記事の検討をする力がついてきた。
- ・修学旅行で国会議事堂が目的地の一つになったことをきっかけに、児童が「国会で何を話し合っているのかな？」と、新聞記事に興味・関心をもてていた。

② 職員の立場から

- ・全学年で、新聞を利用した学習に取り組むことができた。
- ・学習に新聞記事を利用するだけでなく、図工で新聞を使った工作をするなど、様々な形で児童が新聞に触れる機会を作ることができた。
- ・見出し・小見出しをつなげて何がどうなったかを伝えたり、リード文を読んで要約したりといった活動を取り入れれば、書く力の向上につながるかもしれない。
- ・児童が自分の興味で記事を選ぶようになると、地方新聞ばかり選ぶようになった。これは、新聞コーナーに並べる地方新聞の位置が中央にあり、目につきやすかったからではないかと考えられる。高学年には、国や市町村、都道府県の動きにも目を向けてほしいので、新聞を置く位置も意図的に工夫していきたい。
- ・新聞を利用した活動が一段落すると新聞から離れてしまい、新聞を利用する活動が継続しない場合があった。